Nagoya University Library

悦目集

全

名大図書
W
911.104
H
0

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
1 / 55

Nagoya University Library

911.104
女E
62149

62149

帝室圖書之印

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
2 / 55

Nagoya University Library

Nagoya University Library

一

言をよまんにハ言後さ行ハ事あるへかす歌に行きて
縁乃しをもと先よ三あるハ三所にをくへし二あるハ也
たいくりしいかことこしとふをく曲し一行ハ一ふし
言によし曲し縁の字所ハ縁れと兼を易て名をよ
をく曲し縁をもとめすして言後さ行ハ事ハ我本
かつて歌をいふにしたんかことしといへり縁乃字といふハ秀
句なり縁と集といふハさしことれたりある事也たとへハ
秀句といふハ物をか称る也浪のよ物くもあらすと
行く道ハ波のよ物とも夜の夜ともかゝる也是所れ物を
縁乃字といふなりこと集といふ秀句ハあるてたる事のた
より是事也たとへハ其所得なきたらこそまされなと

一

以下なるす也こ事をつゝ曲し
言ハ心ふくもかゝきよけまて心ある後をられたりとす
こと集おかくなきりて志ちをこそ物ハいとまろ事なり
ひとすちふもくよりふ積曲事なり心こと集あひくもる
事かくハまつ心をとる曲し所なる心ふからすんハもさ
をいさ事物曲しそかくちといふハこちきよけまて少へ
なて言と呼えりしハあつしくそへなしる也こりふ
えすなりれん古人おかくハ物ふ言抱をとさてもふ
心をあらはすさ曲をなんよりも志ち物を南所にさしもなさ
人のもしめふおりふ事をいひあらはしてのこ物る事
おかしまろ事なる物へし今是をいふに言まろと

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
4 / 55

Nagoya University Library

とさしてもの御におりふ心をあらはすといたとへ久方の月
とも見とも足川の山をしてる河ぶかこれ名あさ河ゆる
ひなんと風られ事とも成立三句れ下ふを行て下二句に
なふ事をいひの心無来也うてそ所れさ毎さけありて
あるめりしくいひ志まりときゝゆるゆなるへ来又ちうふ
なりふ事をいひあらはしあるいむしりより秀所にいまさ見
きうすなり是成心にて續作るへ来なり

一

和所式にハ一首の中にこめおりひさる事もなくいひりし
ゆる成ん老風病と申さる也かゆ少へよりの来といふ也
かゆ其志りあまえ西をしくあやまりかゆ御しくいくく
こゝくいゆしくあまりに老らうなること無なんとをいよく

えうひ志りてもられさる事にあらもんいよむへうもすべて
ふるく人のよめ御詞をふしまりしさるまつ一ふしなり
とも我とさつらしくこと意をよくおんとおりふ御し古所
をかゝ文としてよめ御すありそれいゆふとよりすをよそ
我いよしとおりひされとも人のあま称く志りうく来いい
ひなくなんある所りむりしれやをこのこそ續いてる
まれひとりよしとおりへとしなへてさしもおりと称えあ
ちなくなんあへ来也又所まくしまくけるふ来詞
日本紀風古紀國こゝ名所に續作へ来所なんと是をとよ
くしく見る御しいゆ来さ毎なる所にハ縁のこと集し
まつしまして御しまして雅しなへさよめるいうさいくく

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
5 / 55

Nagoya University Library

同しちゝ見るおとろかし来初也ゆゑ人のよめる詞をかゝる
志るまろしといふは是也かくれとくゝ乃いましめ言れ所仏
なりを代の言をこれはゆゑ来まそしいはすさのふ意
言をなふの風情としけふれ風情をあすのたいりくとも是
彩所はさ紀にも申侍也とも百葉集よりこれなき三代勅
撰三十六人の家集なと沈見ゆゑて其中にまもられていふ
なり詞をとりふゆ来仏をまるふ色来なり

一

古言を言ゆゑにをく事をしめしかれとも
て是を志るすたとへは古言れ次第二句をとりていきの
言れ第三第四句にをれ又ゆゑ来第三四句をその第一
二句にをく元達のをしへ久しくなれりくて上下をちる

事したひかさるれは例のまとゝ見ゆ又花の言をなりて
りゆられ言ふあるさら雪れ言をとりて雲乃言に積か
したるを見連は歌同はあ稱とも仏ことに来なにかゝる所か
し来分も申やうるれとも花の言をなに月の言を
月に言をたゝはさすして志りしその仏をうへてめ所しく
よまんとなり面し又ゆゑ来五りしを七りにかしたとへは
五言詞を七言に沈ふ所かとし七りをしたりに沈めるは
七しを二句にかけてしよこ沈へかんこと集をうるすす
古言には一句にこそ積されとも以事なくこそりてしよ見
侍ゆゑ来にやうらていふ事をしてちりゆゑ所を面しとも
見るすおほかさな言にすかしといふは其ゆゑ

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
6 / 55

天にひかれ地にかたりの物のことし日本紀若不いさ紀まし
中たりけるやうによく見る事也大なる音れ本懐なり
又風土記にいふし米をとれかたり山川乃若れかたり
くいしく見てしかりある山にいなふと以ふ菓米あり河
かかれたりこの聖には何といふすあり菓かひたりと
志ましある浦には志ゝや米めかり貝ひろうとまてに
志ゆせり又國によりて風俗のかわれはいふ也見ゆ
めり又朗祿なれ中那の鈎の公は風情をのけたり
きさらん時は猿の米なるし

一 音成よまん時はやまひきさひ物公にかけつれん奇作
まりてきゆゑて何と所くありふまなく猿て後にうく

なほしよしさるのふへきなり

一 その物をくにしよまれぬにはきさ志遣なへてと申て猿へ
きさ志れといふたとへてこそといふまんとてよそ成いふまか
御命し

一 音をんかれて上よりよまんとおりふ屋うす上より
よまるゝ音もあり中よりよまるゝ音もありすそより
よまるゝ音もあり成よまれぬ所よりよまんとも遣い日
をかさゆ也しをうゝ東すれとしいてこれ物也縁の字をれ
紀をしまつけたん物をあてゝ見んにてまりてあるを
いてきさらん所をさゆとして猿所くへ米りの也ひまつと
又音をよまん時は公を一和にをうすして十方にそらしさて

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
7 / 55

山野河海にやさし来風情をもとむ風し心をこそとも得ゆ
ゆへにたゞ事も我にいてくる也又いて来こゝろ人こそとは双岡海
きわにて来ばかりへき也忘しかる也大なる心懐なり

一 言に大なる極事ありて言をいへ百千百歳をもとめて是を得ん
極の中の極極なりとも得て口とす風し是いへる歳に
じゝ人時にこの歳れ中にもれんや時にこゝろてよくせあ事也
まりよこたる言いかるすす約々に口つけされとも歳にむこ
とれいよこそとれ如きてなりひ出してもあるにしまる也
まして見ていかれし口にかんにいへ中にをよいす人の物をとゝ得そ
そそうかしてたゞへられまつ物をまつ大事にあいせんまへまつ
たくすんなりす是いたとひ子弟子なりとして悪量心をえかりせ

ばこゝ風しさし所く少るをまし来極事也これをあさに被言
せんいたるあさましかる風し心中におさめてえる成りんて
口とも風し心のかにおもへ来事にあらすく

一 言れ箕かとおりて面の夜雪れ物をうす一首三首毎日
よむ風し人丸赤人の御口をゆつり給ふ也

一 言ふ音悪二ありたとへて口傳にいたくまつき言れ如くて
よむましきくひされ言とてあしき祈を志るとな言にいたく
きそれに志ぬ極来れなかれさそとのれとやさそ答乃かけたし此
言さそれに志ぬとよみれは縁乃字もこと集しまくされる也
うれ知れさん物はそふくもあるに風しくひ乃されるものは
いのちうたまし来也むいましあまりしとまといへりよむ

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
8 / 55

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
9 / 55

Nagoya University Library

一 又發句指句ふたつたてゝ一にてのこゝろもあり
それとていとの所ゝ淺者の海をこゝろあれとも句の和句
緣の詞もかくれなく志所ひつゝたてゝ句と名をそれ
ともこれのたくひにおもふ句にすこのかゝて
おれとて句ふ仰ふ句ふやうにすてゝ句ふうゝ句ふ
わもさゝれ志ふあ句一ゝ句ふ一1い發句指句ふわさうひつゝて
志井ふゝくゝみすゝくゝ句ふ一うゝ句ふこゝろにて
うゝをいふもちにもたゝ句ふいてゝ句ふにて
おこゝろなゝ句ふ一ゝ句ふ一ゝ句ふ一ゝ句ふ一ゝ句ふ
ゝゝうゝゝゝゝ句ふゝゝ句ふゝゝ句ふゝゝ句ふ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一 ふをいふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
指句ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
10 / 55

Nagoya University Library

なのりまでも一まてことたるもあり是まてよろしかるへし

一 ふすけ字をなせよと以ハ来と見とをとこと也なり
若ふ来とあんよこゝろくも字をさなりしさしあつて若ふ
言と以面しこと来といふ所しひ来れ字也又いそし月
のりと以ハ来をこゝろくも字をさ所りしさしあつて若ふ月
りしるんと以面しうとりといひしのひきれる也をこゝろ
のさてたまゝ字ゆへよふすけ字をいふ所ゆへ也こゝろ也
こゝろぬしとゝへしむなり

一 屈をかれ字と以ハ志りしなり無しへハ
ほとゝ来源なるやさ月乃こゝろ来しひとり称さ也ハ
あしう称ひとある紙称さ也ゝ字すし来字乃より

あひて以来こりしく来ゝ無也ひとりしぬ也ひとやまとゝ
たる也我とし人とし見るとしきくとしなんと以ハやれりし也
極りてやさし来字なる也し

一 字をあまさすといふハ無しへハ物といふ三十一字にいひそゝ以ハ
一字をたゝさすしてなん物としてやしてよなんとせんる来
る紙くゝふる也この音れとし 鋭音云
花乃字をあらすれるとも當乃称されたるよてあふれそし

一 心をあますといふハ無しなり羽をまくゝすして物事といふ
さ紙といひそゝ句をたゝさんとていろゝなり私由をよりん
なるる紙以也是いさ紙のてあふれその事也こゝてあふれそ
といふ来り一字無ねよりてあるといくいへゝる也屈をしく

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
11 / 55

Nagoya University Library

一
一
一

Nagoya University Library

紫ゑれこれにて物乃なし来い　なといふにつきておりてよ
しるりなりいうへうしたり是い下也是をとりてうをよき
言と中也是をとりてよしを大事とする也風し三代に
是をとりてよりる言いまくなれ也此言を是を意てる言明る
雷ゆ遠ん木こと女花をされよりる以是を物とまれて
おしましこ乃言ニ下かけあひてそこく得るとて帥近
なりし人もある来人かめ々海と中されし海とまありそれ
言也うへ志てかけあひしる事末代の人よしいそん事をさ
る風したとへん梅とい毎木とかけり木ことよよりなり
いつ遠を梅とまきておりましとつけ得る也てそてたく
をうこ来言也鈞まてうれ事い得る

飛奥鰭急遊波鼈麗鳥啼悌出苔鬱
これなりかれとく鈞言いはしりよし事いうる人事也志れとも
又なり風い人丸赤人新恒貴之も公よりかのたまなれいまれ
らとてもいへのう称に海をせてなりしろ水乃君やりさなりる
風しや
咲うに於人乃草木れ志りるれんしへ山風をあ雑しと
いふらん
夜ひし乃も我いうつにはすこともひとつ君によりてなりたり
又ちか比の言に左京大夫敬季が賀守まてをりけ海にひ
はりしたる哥なり
よろこひとしらへにいそくなるれいたりへとえてそさる

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
13 / 55

あまりなれ是仮名の字也かゝといふことハひとくゝりとなる
しらてよみたる也されの字にとらるゝ事ハ猶さしくる也
末代よハさらさめて入りてよます也とてされはこそ猶連とし
字すくなるをとのされはさるゝへき事也　両字発句　続句
の中なるなりたとへハ四字也　ねたそ連なり　続句云
一ね　あつさゆへとして夏のよあけぬるあさひとつのかさしてん
朝夕にむすひゐてをゝしかりなれと行て言の見れとあさね
一た　住吉のあさ浮のなみはこきゐて光りつけきん日吉の連そ
みなもそこよりてゆするいゝんや其あんいはらし
ほとゝきす次の声きけハあらそゆめてまいる恋せむさ
一そ　春れかくすされつゝふかきしまれそ聲をおつしき一夜桶なり

一せ　夏山によみて時なりあくれは明ぬれはこゑなきゝゆるそ
冬よりも春こそ花にをりいはまさる袖かれ風のむかしそて
きのふにかゝさめのまそてよりくる風こそ今の名なりなれ
一　又このことしのまかりし七字ありときゝて風さしき字也
忘をよのやまし　こ連也　続句云
忠峯　忠見ニすハ小声を句のまねをされつまへよみて
の風さしきとそりなりのめへ　続句に
一志　夜の長き神ゝあけぬるといひすてしんハ物をやおりいさりけん
いかなれはれ世なりせんハいふなり人のよの気ゝなれしかまし
桜様ハかんし句れ下によりきてあれつまいるさすこと業を
行ことよしとおもふなり

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
14 / 55

Nagoya University Library

一も 郭公なくやさ月乃こしう夜も秋しぬまてはかりしう移りて
ほうせこうくやまよひなりさうふ乃かれかまひなりて志りしも
康秀いよりしを匂の下にをれつまんなるすこと案をつき
て屋さしさゝりけり

一よ 吉日野乃さふ夫れ雅鳥いそ見上いさ米日みて万葉つきてん
よそにこそ海ん人上花の花をひまとられ上枝いかりとこ
遍昭 素性いさりふのりし匂れ下よりきて屋りてかりし
して志ふみてやさしといひけり

一 梅の花をれとも見えすく久ふ乃あさきの雪れなへてふまてい
大ふさい月をもめてしこれそこ乃つれん人の花となるあ
中宮ハ屋りし匂の下にをれてなるしてひろくたゝふなりと

いひけるなり

一や 三川うれ木上のまゝる我なれや見しあしてせい奴にけり
なりひ出さく寒し未時いたゝ房乃鳴て涙ふ我人ハ志らせや
友則いさりし匂れ下にをれてハ祠を助てやさし未とけり

一ミ 吉れさる鹿の衣ぬきうすミ山風にそそ涙へてなれ
住吉乃松を秋風ふくうに静さうそふりなきん志らなミ
あるひハ口傳にいはく人丸黄ふくいりしをたくふふをけり
といひけり人丸心のりしあまりてよしといひけるなり

一じ 立田川ちらしそれてかゝ涙りわたるハ錦中やたゝなん
黄ふくかりけるなり

一 なりひいつぬまとや人の見ふ所ん蓑と志りせいさあさう海
しを

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
15 / 55

風ふけるおきの白波ふるゝ山長ゆるや言のひとりこゆらん
但これはかりいはるゝ事をもて祈まさりて御ゆるとも古人ハ戸
はるとかや又ちしかふをもてはかり助の字をもてはたとへる
きミ　ゝ　ゝ　も　じ　志　これ六字也一ハ小木ふるゝといふ一ハ
月かゝを月かゝといふ一ハいふちぬるんをいふちぬるしと
くよじなり

一　屋をも字とて二字ありまれとし人をもあまり國川
おきの是ら也かゝをもし所しほうしらに屋也まにく
いまぞ見まさせいつらこそすれまひしかりけり所かりの
所ゝ古言によれいとて少々このミよむへうすと
先賢のいましめ也あれ事さのミいましめ戸へ来なり

祿とも十ゝ一なりとも是をいましめいをのほうほ来よく
言もなとうなる海へ来よくしかし行てまひるゝ海へし

一　病をさるへ来事四病ニ云　岸樹　風燭　浪船　落花
岸樹　初一二一同　風燭同句二四同　浪船五言第四五
七云六七同　落花毎句同

一　初一二一同者　来ミう代乃きう海りしきなといふきこりし也
きミう代のきと来ゝ海のきと同事也二四同といふハ
来ミう為れなといふミと也五言第四五七云六七同といふハ
言ゝ代のひさしうるへ来よの是也毎句同六句ことなり
なるを屋しこ也なり

一　八病云　同心　乱思　爛蝶　結鴻　花樓　老風　中秋

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
16 / 55

Nagoya University Library

接懷 これなり

一 同公といふいと案いうりて公なりし来なり
あまりとふ子いまそなれさふ来よすかるけのさろれ
ふ心さつて也このなれさと汀となり

一 飢思といふは第一初一第四初一字同なり
意しさいなりし公よあらすとしこ夜乃月を言見さ
めやこの意しさのことこよひれ事也

一 爛蝶云ハ初五終一字第五終一字同なり
桜ちる木乃下風はさむしりて夜に志ると逢ぬ雷をかり
ちりちりれ御とも御乃御とおなし来なり

一 潴鴻第三句終一字終七字一字同なり

なくへいつ屋へ山ふまはひけるし意しまわ乃さ見まと
ふじこれなんのしりゆんとふんれじりしと同なり

一 花橘といふは名物の郡をよみ見ゆるを事也たとへは菊を
郡よえてきくといはんまれこそくもあんとなりて菊
うにかとよえて菊と志らせんと思ふなり又月をえて
公乃御きてかとよみて月と志らせんと思ふ屋ゆるを事なるへし

一 老風といふは郡をよえるやさぬ事也たとへは紅葉を郡よ
えてはをろれ山下もかれぬよしをいひてをろ花を郡よ
えてはあれ山にしあまりたりにりてなまを西来にたる

一 枝さけりよし頭ハ手を中也

一 陸といふはなりしを少へなく六りになし七りをハりしに

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
17 / 55

まへ紙にあり

一 懐悔と云ハ哥も詞もあまりに事かゝりさりとてハとすくへハ

よくもやさしくハなうんて懐よりひきたまふへし

一 四病八病とてこれも連句病とて同所の二字

いふ紙にみえたゝへてまきれ哥の病のなかにも以上字違

是もきらふなり又ねをもよみたる字にてきらふたとへハ夜ね

なるあすきさゆすみて涙のぬれぬ字にすれ字なり

二所よりとあみ也是ハ句紙面にてもしていきすつねも文字ふ

をされ字にて二所ときらふ也たとへてありてとあんよ

句を廻てもしかりてとは作りへうそすあれハあんと

以あもしいあへりて又さうふてあんよろうのあまと句紙邑

そゝもおなへてすみしれやまひとて句を廻て深く

みるをきらふ也是をさらぬまへゆきうたるれともあ

ぬ事なり

一 月もつ花にもくれの名をうけハ昔の人の袖にれ

かけすの二句にハ同るるれもしこれあをうけハ春のれよる

みてあいひとひの歌を持ちくゆかさる也たとへもも

ははみつめしくしとみ字のやまひとてきらふ也又すなし

みなかれもの判するいきてはす文なつしりんれとも句を

句を廻て又ねとにいふてきらひす諸先よう

とまんてもさうとしくりにみち月ゆるの月とあなしける

みつ月もあの月もあの月にあつし月なれとこの月の

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
18 / 55

月なりと雨は正暇前の月なりされいハ別也この祈乃
りしときこゝれて

一 旁にと朱乃屋まひとてらんなりなんといふやうれと朱は
をのゝ二所まをへぬ也又旁れなしされなりしあ雨ひは
なしされなりといふ朱旁れなしさの白なるをいをくまし
きなりそれにふるくなくとてそこ紀白来しえたらん
小はをく屋しいとしもなれとよこいそたらんは見くるくかる
屋し旁はなしされなりにしくしあしくしなといふ也

一 かしこ角朱字とて三句上四句をきらふ也たとへはよし
神山ありとの花の雪れなとこの字形る屋しこ連祈り
しましまりなり

一 五くりじさう五のわりじとう七くれのりじさう七くそう
じさう又あひのなかやそくれのんの字はきらふ也
先られやまひをさうすは人は見えん事をそれ屋し
又祈の病を少さ雨やしありいかなそ最ぬへし
大かゝ旁れあるゝ紀の和は吳服かるゝし旁なり所
まゝ乃をかゝ所なり屋し

一 万葉集よさこしりん旁といふは息の旁也そん旁といふ
志れ旁也ひ中といひりんだらといふはりにあらず事ぬ
旁れ病也そを古事はまいるふは見えるかゝとくるゝは
それ粮あまゝあり それをさうてよまん事は却れる
朱の人乃よまうへ朱ふてあしてこゝ末代の人れなら

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
19 / 55

Nagoya University Library

さるべき事れかはりを志るを也ある事ハ方にしたれハ乃
病をさりてよめ御ハ上ゝ所しいはしもさりつしとも見えを
ゝるなし公の病となりしかれやまひをさるべきなり
同公の病といりしかゝりされとも公のおなしき也たとへハ
山桜さにあるとにハ花よりも嚴乃志ゝ雲立国さりなり
こ乃山と嚴と也山のいてゝきを葉といへハ病よりちゆへ
三子とせみる御てふ桃乃としよせ花さくまにあひ上ゝ所れ
見ていとせを病とす草子説の方合はさくられなり
又りれ病といふ公かりこれとも同文字なる也
太山にハ松乃雪ふ消なくに都ハ那人乃事葉つゝなり
この三山とゝやこなりゝ三山といふ見やハ花乃ゝやこと

一

以えりし同かれとも公のかゝる也
あさう山かけさへゝゆる山乃井れ浅い人をおもふりのかハ
この方ハ方れなるとそ少人れ手ならふるしめれ方也と
古されと家にかれたりは方ちゝるゝといふれたるか病
乃あ進て末代の志をんれ方の病乃あんにさりなるんか
志かれと病なるへし
三山にハあれなるしと山にハまさ木れかほしいろ
所きにたり見えゝ三山とゝやまなり
あつさ弓をしてまゝ毎日ふかりぬあすさへふくハはかれ
つゝてんかりぬふくハ也見らいかゝ所ハ病也は方ハ
ゝふ三代集にハ出りたとへハ是ハ人のかゝられそられなる

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
20 / 55

中小公をかれたる所三ツ也とも見えたるとし是
られ所に病あれいとていとしかうん所れ病さへあらんハ
ひきちうもなくや侍んかやれまハ雲霞のごとくにあ
れたさのことをて志るさすを見まて心ねあつて

一 和所にあまさ乃拝 長所 短所 旋頭 混本 細文 隠歌
折句 異句 誹諧等なり

一 長哥といふハ人をつゝ句あまりてなり来を口也
それハ古人の口ゝるとて師近なるし人ハ短所と口されき
三十一字れ所といふれきハいるれ世一字れかしり来
を長所とし云ふ人なり来を見しり所となれらるや
答三十一字の所ハそしめれなりしより口ひおきるべきを

きてをしてをいりれ古にいたりまていひと成たる物なり
見しりかれとも公さしをきてすしてあるかゆへにたし
めよりまゝまてる物をいかりしとも也いりもろは
かかけ也とし短所とよろる事ハそしめれなりし
よりいひおきる事をいふしちもそて縁にひかれと紫
みひかれてきまゝ行物也をいろれなるなれたもんゝに
きまゝわまゝハ見しりしとをかるかゆへにたしり所と口也
ゆめ〳〵こと義にしたくへかすせ所こと義子物あり三代の
御かとの所とさうる御まいある也ことおかれハ志るさ
をせしこしり所ハ混本所をつゝ者ある也いれのなりし
よりよめとしなりしよめハ混本所になりてよまる

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
21 / 55

かりこの哥よむやうは五七〻とかれいひつゝけてとまり
てさて〻おはりはてしめは又七〻とつけあまりをよみてとゝまると
さめたりといへとも是を三十一字にかくりよまれさるゆへは
又三十一字の哥をそれとかはりてよむ也又是を長哥と
いふ人もあり又時にはこと事ありて同しからすしてこの
長哥短哥の事さたせる哥の事学するへき事の程として
新古今人丸四巻のうちにかきあらはされしてとまりあり
古今あひして古今伊勢の短哥よ云

一 おきつ浪あれのみ海さやのこらぬ思ひこそ
いせのあまも舟なかしたるおもひ心くかゝりし来よ
波のよるへをしる平みかけの中の哥れあらく

一 秋の紅葉をひとへにそのちらしこそれなかく
たのむ人も所くありて それよりさきのふかり 古今やかへふみて来
古今に入る哥 見立なとして 宛てまはされは さいつりたり
哥はてありて よしとこそ見えたり
此哥の初よりもさのしとして古今三十一字の中なり
十りしあり句を二とうちかへつゝ哥あり
哥のかひこれ中の初にひとりうしまはれて古今やうちみ
又かゝみすこやうくにかへてかゝみすこの前あり

一 旋頭哥といふ例あり例の三十一字の中より一句を
くはへてよむなり又七りそのくらいてよみくせよ
今の中のおもひいるとき人の心よまれたるものあれとも 又

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
22 / 55

Nagoya University Library

りと二所よりへ侍りいまゝ見侍りてよまん事よりこ
ゝ侍て詮言云是ハ中まゝ七りしをらへゝり
ますゝ見そこゝ新よじひあそ云所よそ志ゝ[illegible]
かの思ふ事ゝ侍をのこ志かりそ[illegible]
さゝせんこれハ[illegible]を中よくらへゝり
うちわきをとりこ人ゝ物ゝ[illegible]
かゝ乃花そうし是ハそそ乃七りしとよゝ[illegible]けたり
さ侍ゝ[illegible]さのゝとそ志ゝます
一 次ゝ混本言といふ物あり例の三十一字乃言れ中ゝ[illegible]
一句をよまゝる也詮言云
あさかれ乃夕かけまゝすちりやまゝ花乃よそりし

こまゝハ末乃七りしをよまさ侍也
いれゝへゝ稱ゝす松りしとのゝこそ[illegible]ハ
是ハ中乃七りしの句れる[illegible]也[illegible]一乃稱あり
一 折句の言といふ物あり又りし所り物乃名をゝ句れゝへ
まへてよゝ侍也小野小町の[illegible]りに[illegible]言
この集にとれゝる[illegible]たのまゝ[illegible]
是ハこと[illegible]と[illegible]
この集ハさこゝ[illegible]花[illegible]
[illegible]にこゝ[illegible]
一 又[illegible]りあり[illegible]言といふ物あり
あゝさうも
是ハ仁和の帝[illegible]

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
23 / 55

おそいはるさきれ
せはいのなす
みそらにこ
きみがへもし

はるひのやまにさかりすぎてもあさの
よきれなりし御ひろきぬれやまのふ
よるのひさしらされ地のさしもなかる
これは公みの御せすにおもひしりぬれ
いかにもしのびたりけ御とうれ

ら
雁ちぬるにも梅の匂ひもかけいのはるさきの空ちぬらし
里
思ひに我をおもひてよ明のきおもしれはきまつらしむよ忘れたりし
は
御のやまさけのおもふるはよきにさるにもふそおもひ思ふ
ま
逢ぬの文見たのもとは人ゆへよ公ろうしてまたなれにも十遠
ろ
詠ひそてこれらにさこひゆうきに真まらかき思ひの月忘ろ

これはむさしのふりよみたれよしくるのありさまを以みそまよ

さきそこれは称よりおもよ御のもとしき種也たれなのかけりに
かくよ沙にはおもひく絶て見てしかもにいかれら里はまろか
大事也おもはくあるのかきおしかす付

一 とりよめ見しかれもにとしい万事すまきへてよろの
との事
これは下のこふまをはにさるよ御よまたり
さしま行にはそ
さしあれ句の一字ともとその七字ともあまと
みりそます
たり文ちしあれ下字をえりれ下字とはなの
思ひさゑおもやぶ
かりによせむ中ね思まれは沈ぬよき花人
これしなれとて
言まふとこひよりおもよまれぬ也

一 廻文哥とは上よりよみしも下よりよみしも同じ事によまるゝなり
これは小論尼の方なり

Nagoya University Library

[illegible]

いろはにいたく

いたいろくろ　たらん　あしあ　かくかへ　とへ　とうと

ちまち　里あり　ぬかぬ　[illegible]　[illegible]　[illegible]

よまよ　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

らこら　[illegible]　[illegible]　いくい　[illegible]　[illegible]

やとや　[illegible]　けふけ　[illegible]　こけこ　[illegible]　[illegible]

あのあ　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　こ乃稱なり

又いたく　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　こ稱こ乃こ稱こ

[illegible]　秘の中の稱なり　[illegible]

一　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]

一　[illegible]

[illegible]

一　重句といふ事あり

[illegible]

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
25 / 55

又ていひ方といふものあり
秋乃雅ふみまめにたる女郎花あかとしし花もひとゝ来
一 又贈答これは方をもとに紙いふ也極大事也人の中をくなりて
をりし事にもとも也凡ら何も事也もとも厚くなり
たとへはこゝ人のもとをとるし何事かはなといへるもとは
なにすしとすといひ又別のすしとすなとふとゝろれと
菓をもらしてもとすしあり心は同事なれとも詞をかへて
もとも也方はよくよめとも也しれたる事也
一 小町かもとへ真静法師か説法を守て安陪清行か
御ゆとして神にたまふ白玉は人をこゝ目乃涙なりけり
也し 小町

おろかの所の涙を神に玉はなす我はをれあへをはせられは
一 業平か歌に約かの女に敏行
御道しく乃詠にまさ御涙かは神のこゝあまてあふりしも御
といへるもとすに業平女にかゝりて
涙ことを神はひつゝ涙川身さへなかるときかはたのまん
一 大貳三位里に出て約か後きかせ抜ひて 後冷泉院御方
まれ人は四ゆくとて住吉乃里ゆとのこゝはかりはさしなん
とをかれは 大貳三位御也事
住吉乃まつとしさらにありなとて忘るなとせれけそ忘し来
かれ女ひおはかれとしもしとの御方になりぬ其きはられ也
又古方にはいはく

名古屋大学附属図書館所蔵 神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
26 / 55

多かりけるくさの葉はいかにてんまの身にかゝるをおもはし
ことにて六ミを送りたまへかしとすに
といふて此を下されんひろひを拾く御ありかたかるへしとやらん
これ折る程にし給りこのおもんかれたるにあやかれよとさ
のことて志かきすゝむ人のりよく御かたをしろくしてもつて上達
禁中仙洞をはしめて貴命のかたへさいつるものかたきはさしおかく
まさうに名のおきいよまつ世上の御事を承ることとかれ
さかりかしよ京の人をきゝつりいふあ世其ゝいつけしん也
一 あふむ也しといふもののありかた下了公を望みくるして給て
まいを以て是ある此ていふいふ人の口まゝをまなりの少へよかく
春村といふ也いさつしくおしひあへさらんよそのの儀ままかいさてあらん

句し一字をかりて也て本復りありかたに神あれ半まに
行もて著にてし給ふれとさのことて志すをすされた
集のふかふ入てかまいかて形しけるへは是そあつしめしと
以て承るに一条院春日行幸に上東門院へまいらせられたるの
そのことや祈をおのれ身日野の形をかきて君もしらん
御返事　上東門院
見る事世の光とや春日野のむかしを思はるらん
みこよかはるを以也相見むとつゝみても同名同様ありには
相同事也二句をかりてかゝすは二句文字あれは事也又をは
志すまて和歌のかはすらしかりてこそ集のてらのやあり
かさ形りしをまてそよふれ桜花常にまれなる人てゝ給たり

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
27 / 55

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
28 / 55

一　浪千のあられといふはやまとみちの家集にて遣(?)といはせ
来るれをみ給ふやうにあられふる家といはれし哥をよみ
やまとしまねくとよめり又古今集にまさる山の井とよめる人丸の
山まへての序をせられしく山の名の前のあつまあつまれ
とよ歌をよまれり文　まさる山と申しかくもうりにをよく
うる庵川よりて行の文　とふあつていはゆるいは人丸の遺
万葉の古葉羽をよまれり古今集　家にふ中よみてとよ哥を
後撰集は流るるあ中よみてそられしをいふにとよまれり先達
去すす上古はかくれて中比は哥よりまたなりけり　千代を
おりしるくに短信て
住吉乃松を秋風ふくからに聲うちそふる沖つ志らなみ

この哥をとりて　沖津風吹上の濱は住吉乃松の聲をも
あ梅志てみるとかくれよくよまれりと上手といふ也といふこと
あり仏せんまでより仏をまもおもひよりて何とよむにをここの
作の魔のうつし　むかしの古也その經書にいはく
釈大身滿虚空　釈小男入芥子とよめり

一　この和哥よりて
まち風とのあられ桜花ちるをいふえてもさくや
さかれ　是をとりて　よりやとの桜あれもさちるとれは
仏もしえてそ雨をせさりけれ
東三條乃右大臣の哥てかきたる君とありやとよめる哉
新拾恒花もみれはこれまりてよみの俵をうしちるれ世の

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
30 / 55

一 ゆゑ事も有也いまだ事も得り弘嚴敏女御の方合は
永成法師の方なり
言ふ代はまゐ乃おほふとなりくと白波乃みすもなりくとて
とよめる也と此の事也志れもさくらて金葉集なり
この方作者はよき歌をくりまて得也はさてもうてさて
を紀ゆ撰者おさくとまへ来に見とめすして志らひ入るなほさ
なりあやまち所なり集をさふ人見れのなんを見とかめ
ましてて入得る事は中へ来るなれひかす也まへて金葉集
おほ来所なひ事ともあるてさ海く乃呉名をもつきてさい
せられ事也あまたれ名の中に或新大夫成經と中りのひら
所来あるしとなつけ中ゝる志也集といふ也この言は事の

たとへよるなり乃しりとさふ志り物ゆゑ人のさしよるなりて
なれ家まてたゞ一人うつゝしくえらひかひられいくひかとは
おほ来かなりと時の人は中あへり是は公せをく我一人にて
志らしといはれんとて志をかしかへりとそ人にさらしなる
りられとく乃事よくくかりの人事也見とうしる人あれは成
恠呉事也なまふとなけれは又さらなしされはかまへて人は
さらせるなり人来なり
一 古今祝方序それ一切の物れ名は名目よりことはかゝるなる
ひなりこの集を祝方集となつけるおほく義ありいん
答て この名は所来てことなる事はなしたゞしとの方を
あつしまはいまへの方れ入は付ていまへ乃字をつけとの

名古屋大学附属図書館所蔵 神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
31 / 55

哥をよみてこれハ文字をはふくやつらくに哥はわか道ハ和哥と
いふことまてあつめ道ハ集と云也この事をいふ也日本
紀にいはく天神七代の後なりいさなきいさなみの
みことより此ことハ国をうみやしてあまれる無海にことを
をおこしてあはれふかきことをさらりえらりそれかこれらしかの
志らりとよのころ声とてあと詞り哥は少々に山跡とよふ
さて此山跡とかはやまとといひたる事ハ大とい磯和とい漢
語をとりてやつくる儀なり是ハ少々に书ようすべて唐をとく
ようり

一 回やまと哥ハ人の心をこ種として万のことの葉とそなれり
此世中にある人ことわさしけきものなれハ心に思ふ事を見る

ものきくものにつけていひ出せる也といへり蒼去云々を
松田寺小やつくるとりて風まて哥といふなりてんちくの
ことばハ梵語とて少志てこころくきき此これ無に
あと以て物也漢土の人ハこころしとて唐つけて詩賦をいたる
それなれ我朝の人ハこのしとて文やつけてよむる哥なる道ハ
我国まよやつくる哥と云ハ是れハまことを松田寺に
やつけたら少々よ唐つて声調といふなりて

一 回人の心を無種とするハ此の事そ蒼てハいろく哥ハ風情と
いふ事ハ大りとすう心無しるし事に詞をたく人の心より
おこりて自然のことハりと此の少々よ人の心をこ種として
といふ也人の心を字とと申事ハ無く人ハ物乃ことの

Nagoya University Library

Nagoya University Library

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
35 / 55

Nagoya University Library

一

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
36 / 55

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
37 / 55

せんと長田を出てんと志かひし出しにそきれとの見ると
御恨ふかくいりをのしてまたにくしさしかしてのかひ秋に
あきれまたこ海をの田にえるなり入てかひし出しにて思
大神世申をもさきこそ岩戸にこりし也御ひし也日本紀に見て
たり君ぬ事し又義にいたくせ方に言神にそてあそひ地
神に擁護し納事しあふ事也

一 四ふこの方にあちつらひけるしまりしなし時より出来ぬ
ましかにあらはれつらにしてにうされとの見ことよりそかこ
出りかりといへりあちつられひ来てしまり後にいふこと
たられることの時を云也又いさるにいさなきれることの紀にし
乃言ふして女神男神とありてまた國所より出しかひ来

そ所の事也ひきうされあめとに見也久方に天名百葉集に
久賢とかけりこゝろに屋室されにありあめとは字れよこ
なれは也言てかひとは一義に方沙古賀等也是よりかな
らすなをさゝめされとも言といふ名をよひ出をり日本紀
にいたく同事所にいりにかくにいひつけたりそ久方も見あめ
も見ゆりと後いへりまや答天名にまきともいひ所にくる
事名としれ字をこそいひつくましたれ名と天名とあれ
りくる紀に也たとへは人の天名と実名といひ所にくるまや也

一 三ふあめといふは天にて御道は君ぬるにをよりす久方といふは
天名にて御道なるに行によりて見をいふ久方といふ
答て言じりし神代に十方をさゝめたりしに二方男羽か

名古屋大学附属図書館所蔵 神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
38 / 55

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
39 / 55

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
40 / 55

一りしは積分間といへりそれとの見ことさ紀に地神として
奇なしあるなと呼つけるに又こゝに人の世となりてそさの
との見ことより三そりしあまりは積分ゆへといへり是は同物事
又と神の名れひとつなるかおかつかなし 答て云此そさの
とのミことは同神の所事也互に奇なしまりて地に奇しなかり
しを此そされとの見ことは地に居てよそかへり給ひられは
此神ひとりして奇をふくひ居てかへりなるべし見をりしは
三十字あまりは一事也又初に云そさしをの見ことよりといへ
いつてやくりといふ也

一 又云いるさひめといるされ星にあましかは以也いるさひめの
母はてかほらちらはあしかつちと云也あしよりて人の事を

それは志り云也この義はりとよりいるさひめこめたましか紀也
是は大地あり別の物なり所なつしなかれは書きます

一 四かくてそ花をもて名をとうやゝ雲を表ゝ露を出し
公ことに菓さ面くはなりにかるといへり 答て云是は世字
さゝまりて境奇れ風情さ面くなまし事也

一 四と紀末所はおしの足りとよりたしまりて年月をまとう
たる末山はかりとれちりひちよりなりてあまり電はさふ
ひくまでおひのあまるかことくに此奇はかくれとく所
有しといへり 答て云りろうしかくれ所有所へ
ゆかんとおりかん人のまつるは一尺なりあゆゑよる有し
足のあゆゑをりけてあれさりしるや是れとまつるまを

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵 神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
41 / 55

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
42 / 55

あつめて集とあつけをうへ呉竹の代をは御こゝりにきてそこ
ゑられ集おもて言れ数あつまりてしと也

一 四雑波津の言は御かと乃おほんたしめあさう山のこの葉は
う祢めれ多ひ道より續てこのかさ言れちるを乃屈しよ
手なる海人のたしめまし志なるといへりいん答なるにえ津の言は
雑波津はさらやこの花をこりりいまへとさらやこれ花
といへり此言也御かと乃ゆるしめとは意味玉皇弟宮の内子仁徳
玉皇おほさきれ御かとれ内弟の宮治まうこと御位少ろうん
とて位まし居給はまゐしを意味玉皇御代に出来なる王仁と
以人此るには此の言をよきてこそさつりたりしにたしめて
御来なりしうは言也　あさう山の言といい

あさう山かけさへ三ゆる山乃井れ淺くは人をおりふものうえ
さいへり是を初まゆる大言仏とけ給ひす逆鱗あるしかは
う祢め續いてこ見しは御仏とけまゐる事なるべし

一 六義　柳和言れさ海六ありかゝれ言しかゝれとも所る風しと
いへりいん

一 風　うへ言　なふるつまさらやこの花をこりりしいまへとさく
やこの花といへり是をそへ言といふかゝれ言とは物也物も六の
物をもりて御ある也又是をうゝれ言とて別にあるしにはあすと
いへとも行詩をしかれ言とてかれこ道かよりせるなりしやそ
唐の言よりも六義は為風し柳風字をいてそへ言といふさ
しるや答て云毎とへはうへ言とはいまゐ可さしていえんと

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
43 / 55

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
44 / 55

にてるよりよこあいせる所なれんなりつしされい風所の
所は鼻上あれたりひいてるるつし風所の所よこあ
さんとおりふとれいてるをもんてうちうちけいたまいて
くとい事をもひなるに泊とり

一 二ありはかそへ所

さく花をおりひ泊くこれあるきなくもにいあきれいるとしきもて
先をかそへ所といへる事はいまに答て云かそへ所といふ名を
おりひさしきて志実にしてしまよこたる所也物をかそへたるは
たしる所の事也もしへは二三百しる物をかそへしきてとり
とれたらんは一とり二らしたりとしえ志るまし米也されは
たしる所をもしひ手百る物なりとしたしるまかそへてをれ

たらん物は人のひとつとり二とり又はらしたりとしあきしと
志るれて先は一とり二おきたりとし志るつしされはかそへ所と
名也四誠よかそへ所の義はなれて得りされは賦の字をかそへ
所といふ事はいかんおもひつる所し答て云この賦の字は泊くもと
よむ字也物をはらもしいかそへるよりしてれ事也かそへ
ぬ物をはらもしいひかしされは泊くもしい数乃義なるは
この賦をかそへ所といふ中也こ乃所れ公はさく花をおりひつきて
一切れ物を花所をうすは先が惱のいふす所也されは花者は
こゝろ於惱なるか少へよりん志の業となるよし也さ花は花者
してうる我悔過を感じる事よとよりいてつきといふる也
於惱の惱乃字はいるきとよりる也いるとは秀句也秀句よこの

名古屋大学附属図書館所蔵 神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
45 / 55

Nagoya University Library

心をよこ行りて

一 三よみそくへ哥

宮よけさ物乃霜のをさそいなん意しきことに来しやわらん
といへり是いなそくへ哥といふ事にいかん答云なそくへ哥と云
事詞一をうらそくへに預るすにいろさとりしひ事なら
をかれ通たより所りときゆ面したくへは此哥れ有て
乃とく霜に出りるす時ハ物乃霜のを給ていなんといひ
志りの句にする時ハ其心の句を意し来ことに毎の字に
よし也又是ハ意の句なれいさなりて霜にするもへきにあらせ
人のおろかにてなさそといふ時ハあらさの霜乃かきそいなと
おろか義にいひても心ハ意しきことにまきしやまらんと

事の字にするも也人のきゆるといふにいつられ志ある者也
一度より和にある事なる稱ハ事にしひて毎の
字にいふます是又いかれるそきゆ也にあるさとりし
こるさとりしことりさくこに来こゆる哥をなそくへ哥
といふ秀句此中の哥より如く此所の哥なへし物を
なそくなるといふかれ是事れかなるをいふ也毎とへいきに
まりこるさけたりにゆ志く毎に来物をそうをそたる来
所にこそ毎んなさいふにいとりひさからんひ来人にひさ
らん物をそうせそらくきに所にこそたらんいゆしくなそ
らへなれ物にや事のかなるなりし是をとくひさへに
たらんいゆをそうせそすうしたる来所にこそこけの

名古屋大学附属図書館所蔵 神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
46 / 55

Nagoya University Library

たゞ事物にひきて物をそうせてくらゐき所にこそあらんは
是いつくこゝりしよりしられいなそうへうるといふ事し
これらことく也四ハ此義いや字にて仰り此字をなすへ
言といふはいかん答ふこの字をなすこゝ讀也物をなすこゝ
といふはうるして二ツへてある事也一をなすこゝ所なるへうを
されはなすこゝといふ字をなすへ言といふ也

一 四ハ毎とへ哥

ほう意はよしとも所きし所りそ所れ演の言葉はよそ所くとも
さいつりいかなり成りかて毎とへ言といふを答て言たとへは
言といふはいかんとおりし事と又是にしたる物を二なり
さしおして是とさしたといふ事をとしし言也此言しほう

意の相同事たとへは五海の言葉をさしいふして是とほう
意といふ事はまさうこゝろ成ほう意は物なりしとゆへり
是いうきて時は物のそへ言といひ所る物にしたるかゝお
是とも所しかれりたとへは是はいかんとおりふことくそれは
にしたる物を二なりしきてはとさしおしてくはゆ是はそれか
所しにしたるあるとゆへ成ぬとあるとゆへれはほうにいかんと
おりふ事をはいかすしてかれはさにしたる物をなり續斗てしまと
いかんとしつる事をは所やく物はあらはすなとなり事し
所をたる言也此言與の字也與の字をたとへとよろはなるを
たとへ言といふこれは言なるゆへさしあらわれていまうさは
さらはきこゆ是はいかふをなすゆへは是といふ所なり

名古屋大学附属図書館所蔵 神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
47 / 55

一 本意なきと云句

傍題に似たれどもいかにも人のよみたるを見きゝ
こそ有り是も無きことと云ときはいかにして尋て云たるとは
てこの句の風情しみじみとしてかくのごときものとありのまゝによみたる
句也是ようし俯きたるはかくてとる句とて雅の字法
たることと云と云也是はよくして第二のちゑ句上にてとれたる
やうなりとてこのことと云はゆゑある事しらずしてこさと見し
おもひ出し無きありけるほどに通りがたき人云ひて等を詰ひ
入てあさなかぬ句をよみて更にさとりかたの風雅の句
よみて職上もの卿をもみよと云ふ意とも云ふべきに
事なる有りかくさんは云わしるへきにしそよのつゑ今の
句をいさゝかまぬかれたるは是をとり上になりてこそ句也にても
きとりたる人はいはゆる文意をもちて其意とも
以て俯きそゑあれ職をそへあれよりこそ殿く事なるまいまゐらせ
の中にそこらの本形の句に入るべき也

一 云よいよひ句

こは夜に出てきけりとぞ言葉の上に出ぬ心うかせり
と也これそらの句を祝言といふ事は此形の歌を尋て句
祝言といふ字をつけてかやうにひなる句也ものと祝とよみて
うたれたるをもといひ悲の句みやうにいへど也いひなるを
よみ也されはこの類の字をもつてよし字なれば祝言と只
なるて出ていさきけりといは左様也ともなりといはさうしてけりと

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149

Nagoya University Library

ありされば菓といひの木の名也さいはひ菓といふを略してされ
菓と云也さいはひとはさちといふされはさち菓とこそよむ菓
をひらきこゝろれはかよらしてされはさと云前なりしかそ左来
内和内裏ゝ成ハ所をひの木まそ作られはさいはひの枝なり
少くさいはひ菓といふ云也三菓四菓といふ七の菓也七のをとはれ
らす七菓にあらすお用くれえる也七の字をはお用菓事に
作ふりしありなられしこ来言といふはきこゝろれ事に
かしこ来にはあらすよろ所乃まふりしこ来也あきの川
七瀬のよとゝいふ七のよとゝにはあらすおりくのよとゝ也
こゝろれ庭叢をはじまりて七夏庭叢といふてゝなる也七の
たゝえなるまそかされるにはあらす菓の宝まそかされる庭叢

ありされは夜ゝくらの言
川原ゝ志のにとりたゝはも夜いりにはもそ古ひさん
さいつり是して古るにはあらす年日しひさんとよろるなりて
されはさいこえ四ゝれは七菓也七の菓はお用くの枝也この夜は左
理まそさゝ人なりひの木の百年の枝まそ作りなるとおも
ゝるなりしかゝはなる言はいはひ言と云也又祝の言とし
いふ也所にはいふは祝言にはあらすとといつり和言乃六義ゝくのこ
とし枝ゝ中の枝枝也枝を取しく

一 伊勢物語の枝枝口傳に云
おりひあらはむろ此屋とは稱りしるんひ来物は神をしいふを
先は二条の后に惡しき物にてまつんといひ今ゝ成ハ所ゝ物

名古屋大学附属図書館所蔵 神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
49 / 55

そと四ひゑ人ハひしり法にふ入て本りにかへるをとる事をあふれてそ人
しる也しられこの字あるにハいろこハしかるとよろこハしかる
南いう義也とするにもりとうりてすりて世ノ恵をよる
あり志のすくるを義あり

一 又そし般ろくしてあり

比丘あつきまするふかけて般ふハ六ゑあてハ法ノし玉ふきハし
是ハあすいゑ（ここハそのひとさ）そるふと也 あつきまする（そのひとさそのひとさ）ふ けハその比丘さい
そのひとさ とハや（やハその字也）その字也されハあるいかそるふと也

一 ミ人ハよきるよいうしゆきるしあのくり用きりすや人ハ志あるん
是ハ人ハ志ゆと也又ハ称のつきよ也又ハ志あると又示すされ也
さて又りをとり

一 あなよくり義いくよ風と定まりて志るよ
是ハ庵とう也やとま称んとよらり庵と定まやとすとけんと又
前也るの罪の家とて田みとをさいろしれせん人とかとれ
よろ般ゑりるハるれひまむ卅せのひさけハ称のひとさ也
是ら八極の中れ極也ひなくて しるまて きのよれ志ろまうす
称和尚上萬縁の三るあり是別定恵の二法是也のするゑ也
三意れ第をーて迷のくへよハ三毒三悪趣とありさとり
のまへよい三仏三密とう四病八病とさから又事い人のの
四苦と八苦をいうよ義也ゐるれよりら六義を志ゆ事すよ五行
六腑を表して三十一字よりゆり此人ハ如来れ相好を表して
明りの此人よ眼耳鼻舌身意よ六義ありて志ろ所よまれ

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
51 / 55

済ふ迹をまもりて羽をかさねて金をまうくる事 須達長者か栄え
館をたつることく半偈をもやすし雪山童子の命をすつるよ
似たらん人々は伝へ置しかしらの人よ是を授る人は伝者也は
一人九百人よまさは末さてひろそむれとの月をよみてまれ
かゝりてもまつは命のくりよるの命の六親よまよひ後生まて
取をといともの命の道にもよかせん人の起請文在之
これ書はくらしさいをりて声しまく広也上古の哥仙たちの中よ
及給ふ事なれとしも宝をくして我も流ろしろてこの宗の
れ撰をしかろかへよ末代のうしろやさるよこの大綱を伝とけ
人は浅深に道をそむるを秘哥は命く義利よらうしとも
をのれか心よ是を撰ひて志あるふさ赴をたえんをもんは猶病ぬさう

あるれは秘をのそりんたゝまこの大綱をえて極ふく心底よさし
たまんて他ちよちらんへりんすあかりしこく

年月日　前左衛門佐基俊在判

師匠より相伝の秘書一紙也ゆりて本りん御心にかなへ
もそはこれ羽林よりがいへ人よ伝ふをみて末のよもふく
我か底よかゝりて拙稿をもらてあるへしこく

年月日　梅何在判

この書は盗れ人そしまもをすまりして仮の盗れ人は名をさなき
をも年ころあさらすこの道よ数奇なるかなへましき
入れは少りしつくへ人をも同じ流とするをもわくさ小子より
相伝せさせくちなくて何者私注清の内利生と作りせ

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
52 / 55
Nagoya University Library

祈ふ事まかりあかりしかし

嘉祿元年月日　藤原在判

男ハ一人の子なれはよりて世ハ為紀秘書を少しとて
まつる也命のうきりハ見えなれくまりて後世ハ其子道
ありしあかりしく　妙阿在判
於本二年春日

此書ハ行氏ニ少しつり仰ハ秘書なり仰也件

正安四年七月下旬

本ニ云々　嘉暦三年七月十八日於宮中ニ宿館ハ或人ニ魂

本書写早

日月廿五日一校早　升丙寅ノ下　南宮二祢宜
校祢宜慈本田神主房継判

于時　嘉安七年卯月一日以南宮一祢宜房継神主謹和

書写也可秘々々

皇太神宮祢宜慈本田神主經直在判

此書ハ先年愚父存生之時以教奇甚被事与授之処行失
之仰書所望間依様為無擬奉相傳而已

嘉永十三年三月九日在判

皇太神宮祢宜慈本田經博神主　主様兄

于時文明五年卯月廿三日書之

天文二年　雪祐日書之　荒津二寮孫阿

天文三甲午年　沽洗十三日上章執徐　春好朝ハ鳩原衣写早

此本ニ云々好朝ハ伯本業任十五世ニ云々後ニ五代之大切之方ハ右筆宗行入石
浮見之人孫信心うねこ
治元七卯年　諸祖之　浮阿之人

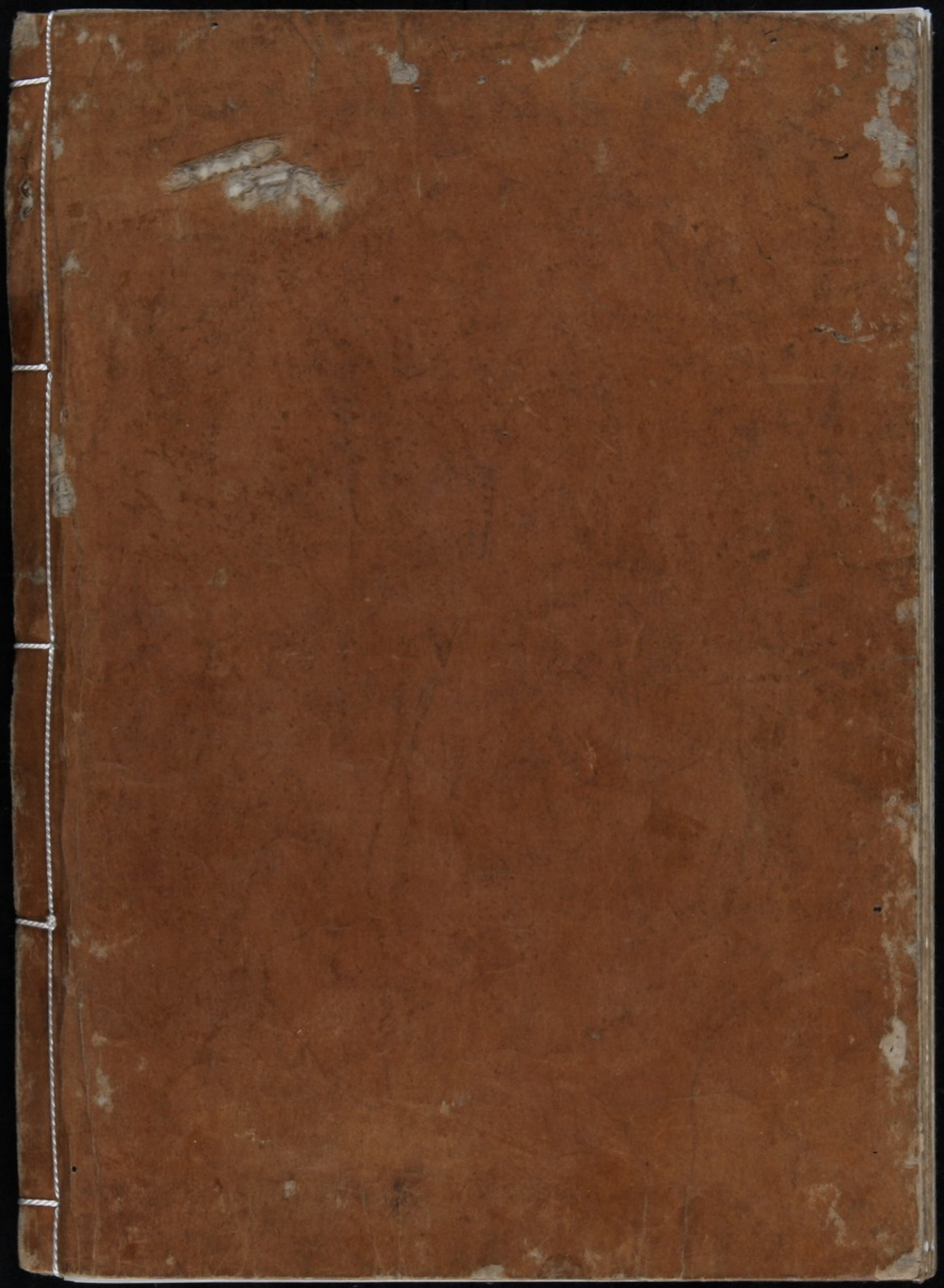
神宮皇學館大學圖書
31774
2020. 9. 15

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
53 / 55

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
54 / 55

Nagoya University Library



名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「悦目集」
10062149
55 / 55